

科目名	コンピュータシステム I B						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	北島仁宇		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験、ITパスポート試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、情報の基礎理論やネットワーク及びセキュリティに関する知識を学ぶ。 基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ハードウェアソフトウェア分野の用語について説明できる	
	○					セキュリティ分野の用語について説明できる	
	○	○				表や文章に書かれている情報を元に計算式を導き出すことができる	
テキスト・教材 参考図書	基本情報処理技術者 試験対策テキストI【ベーステクノロジー編】(TAC株式会社) 基本情報処理技術者 試験対策テキストII【システムの利用と開発編】(TAC株式会社) 基本情報技術者午前問題集(株式会社インフォテックサーブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~3	午後対策(セキュリティ)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	4	午後対策(ハードウェア、ソフトウェア)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	4~6	午後対策(セキュリティ)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	7	午後対策(ハードウェア、ソフトウェア)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	8~10	午後対策(セキュリティ)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	11	午後対策(ハードウェア、ソフトウェア)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	12~14	午後対策(セキュリティ)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	15	午後対策(ハードウェア、ソフトウェア)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	16~18	午後対策(セキュリティ)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	19	午後対策(ハードウェア、ソフトウェア)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	21~23	午後対策(セキュリティ)			前回までの授業で分からなかった点をまとめておくこと(1時間)		
	24	総復習					
評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)課題レポートを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				60%
	課題レポート	◎	◎		○		30%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	コンピュータシステムⅡB						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	小淵洋子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	経済産業省主催 基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、テクノロジー系の基礎となるデータベースおよびシステム開発分野に関する知識を学ぶ。 各分野の技術や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して習熟を図る。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				データモデルや正規化の知識を元にデータベース設計ができる	
	○	○				要求されるデータの選択や表の定義を行うSQL文を記述できる	
	○	○				プログラム設計書やテスト設計書を読み、ソフトウェア設計要件と照合できる	
テキスト・教材 参考図書	基本情報処理技術者 試験対策テキストⅡ【システムの利用と開発編】(TAC株式会社) 基本情報技術者午後問題集(麻生情報ビジネス専門学校)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	DB-正規化、E-R図、グループ化、さまざまな条件検索					
	2						
	3	DB-ビュー、外部結合					
	4						
	5	DB-表作成と制約、副問合せ					
	6						
	7	DB-更新、高度なSQL文、トランザクション制御				授業で配布する演習問題を解いておくこと(1時間)	
	8						
	9	システム開発-突き合わせ処理					
	10						
	11	システム開発-グループ集計					
	12						
	13	システム開発-UML					
	14						
	15	模擬試験				模擬試験前の復習をすること(1時間)、模擬試験で正解できなかった箇所をまとめること(1時間)	
	16						
	17	システム開発-テスト、決定表					
	18						
	19	システム開発-ファイル処理					
	20						
	21	模擬試験				模擬試験前の復習をすること(1時間)、模擬試験で正解できなかった箇所をまとめること(1時間)	
	22						
	23	弱点分野復習					
24							
評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)課題レポートを2回実施する。(3)授業中にグループワークや演習を指示する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				60%
	課題レポート	◎	◎		○		30%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	コンピュータシステムⅢB						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	72時間	担当者	村上香代		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	基本情報技術者試験の出題範囲に準拠し、IT人材として必要な基礎知識のうち、アルゴリズム分野及びプログラム開発(表計算)分野に関する知識を学ぶ。に関する知識を学ぶ。初心者でも理解できるよう基礎的な用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。プログラミングにつながるトレースカも身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				表計算分野で出題される関数の仕様を理解し、活用することができる	
	○	○				表計算分野においてマクロによるセルの参照を理解し、トレースすることができる	
	○	○				基本的なアルゴリズムを理解し、仕組みを説明することができる	
	○	○				擬似言語の表記方法を理解し、トレースすることができる	
テキスト・教材 参考図書	情報処理試験の表計算問題がちゃんと解ける本(翔泳社) 基本情報技術者試験のアルゴリズム問題がちゃんと解ける本(翔泳社) 基本情報技術者午後問題集(麻生情報ビジネス専門学校)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	仕様、関数確認 21年春					
	2	表計算21年秋～22年秋					
	3	表計算23年特別～23年秋					
	4	表計算24年春～25年春					
	5	表計算25年秋～26年秋					
	6	表計算27年春～29年春					
	7	アルゴリズム(ソート)				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと(1時間)	
	8	アルゴリズム(文字列操作)					
	9	アルゴリズム(文字列操作)				模擬試験で正解できなかった箇所をまとめてくること(1時間)	
	10	アルゴリズム(経路・距離)					
	11	アルゴリズム(リスト、復習)				模擬試験前に授業の内容を復習しておくこと(1時間)	
	12	アルゴリズム(その他)					
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)模擬試験を2回実施する。(2)課題レポートを2回実施する。(3)授業中にグループワークや演習を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	◎	◎				60%
	課題レポート	◎	◎		○		30%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ネットワーク I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	54時間	担当者	北島仁宇		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	現在、標準的に使われているTCP/IPネットワークに利用されている技術やツールについて学ぶ。 またシミュレーションソフトを使用して、データの転送の仕組みやアプリケーションプロトコルについて理解する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				IPアドレス、サブネットマスクの意味、サブネット化の計算ができる	
	○	○				要求に応じて、小規模LANの設計ができる	
	○					telnet、DNS、HTTPなどのアプリケーションプロトコルについて説明できる	
	○					OSI参照モデルの各レイヤの特徴を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	ゼロからわかるネットワーク超入門(技術評論社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	・インターネット通信、pingコマンドの使い方 ・IPアドレス					
	4-6	・IPアドレス				小テストの準備として、IPアドレスの計算練習を行うこと	
	7-9	・ルーティング					
	10-12	・パケットによるデータ分割 ・TCPとUDP					
	13-15	・ICMPとping ・プロトコル					
	16-18	・プロトコル				小テストの準備として、プロトコルの特徴などについて復習を行うこと	
	19-21	・OSI基本参照モデル					
	22-24	・ネットワークインタフェース層の役割				総復習に向けて、不明点を質問できるようにまとめておくこと	
	25-27	・総復習					
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				50%
	小テスト	◎	◎				25%
	課題・レポート				○		25%
履修上の注意							

科目名	制御ソフト I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	元田真史		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	組込みシステムで使用される制御ソフトウェア(制御ソフト)について学習する。 実機(レゴマインドストームEV3)を動かすプログラムを作成することで、制御ソフトの概要・開発手法を学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					組込みシステムの概要および活用場面について説明できる	
		○		○		組込みシステム開発ツールを使用し、制御プログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>『改定新版 絵で見る 組込みシステム入門』電波新聞社</li> <li>『ロボットと情報技術 実習-教育版EV3ソフトウェア』株式会社アフレル</li> </ul>						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	組込みシステムの世界			身の回りの組込みシステムを調べる(1時間)		
	2	制御ソフト開発①【EV3でのプログラミングとは】			各種センサが使用されている組込みシステムを調べる(1時間)		
	3	組込みシステムの仕組み①【マイコン】					
	4	制御ソフト開発②【カラーセンサを使ったライトレース】					
	5	組込みシステムの仕組み②【入出力フロー】					
	6	制御ソフト開発③【タッチセンサを使ったスタート&ストップ】					
	7	ハードウェア技術①【基本・周辺機能】					
	8	制御ソフト開発④【ソナーセンサを使った衝突回避】					
	9	ハードウェア技術②【入出力】					
	10-11	制御ソフト開発⑤【ジャイロセンサを使った姿勢制御】					
	12	ハードウェア技術③【LSI】					
	13-14	制御ソフト開発⑥【応用課題1】					
	15-16	ソフトウェア技術【リアルタイムOS】			WindowsOSとリアルタイムOSの違いを調べる(1時間)		
17-18	制御ソフト開発⑦【応用課題2】						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)プログラム開発課題を課す。(3)授業の中で課題を指示する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	プログラム開発演習		◎		○		40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	コンピュータオペレーション演習							
科目名(英)								
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	北島仁宇			
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	企業内サーバとして構築されるLinuxについて、基本的な操作方法、役割などを学ぶ。また演習を通してLinuxの基本操作、さまざまな管理機能について理解する。							
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				Linuxの概念や役割を説明できる		
		○				Linuxの基本コマンド操作、viエディタによるファイル編集を行うことができる		
		○				Linuxサーバにてユーザ管理、ネットワーク管理を行うことができる		
		○				Linuxサーバにおけるプロセス管理、ファイル管理を行うことができる		
テキスト・教材 参考図書	Linux標準教科書(LPI-Japan)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1・2	Linuxとは(UNIX, Linuxの特徴・ディストリビューション)・認定試験について Linuxのインストール						
	3・4	基本コマンド1(ディレクトリ/ファイル操作・コマンドパス) 正規表現とパイプ(標準出力・標準エラー出力・grep)						
	5・6	基本的コマンド2(ファイル属性・テキストファイル操作) viエディタの使い方(基本操作)						
	7・8	管理者の仕事(ユーザアカウント登録/削除・グループ登録・パスワード管理)						
	9・10	ユーザ権限とアクセス権(所有者と所有グループ)						
	11・12	ネットワークの設定と管理(IPアドレス)						
	13・14	ネットワークの設定と管理(簡単なセキュリティの設定)						
	15・16	ファイル管理(ファイルシステム)						
	17・18	ファイル管理(マウント)						
	19							
	20							
	21							
22								
23								
24								
評価方法			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		○	◎				50%
	課題・レポート			◎		○		40%
	受講状況					◎		10%
履修上の注意	再試験は実施しない。							

科目名	Webプログラミング演習 I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	36時間	担当者	染矢裕美子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	多くのWebサイトが採用している4つのレイアウト手法を学び、HTML&CSSの知識とWebデザインの基礎を身に付ける。また、JavaScriptのライブラリであるjQueryの基本を理解しMonacaを使ってモバイルアプリ開発ができるようになる。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Webサイトを作成する上で必要なHTMLのタグを理解し、使えるようになる	
	○	○				JavaScriptの制御構造、配列、関数を理解し、使えるようになる	
	○	○				JavaScriptのライブラリであるjQueryの書き方を理解し、内容が理解できる	
		○				Monacaを使ったモバイルアプリ開発ができるようになる	
テキスト・教材 参考図書	教材①:『すらすら読めるJavaScriptふりがなプログラミング』インプレス出版 教材②:『HTML&CSSとWebデザインが1冊でちゃんと身につく本』技術評論社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	HTML&CSS:教材②Chapter6(シングルカラムページを作成する)			前期で学習したHTML&CSSを復習しておく(1時間)		
	2						
	3	HTML&CSS:教材②Chapter7(2カラムページを作成する)					
	4						
	5	HTML&CSS:教材②Chapter8(グリッドレイアウトページの制作と動画の埋め込み)					
	6						
	7	HTML&CSS:教材②Chapter9(問い合わせページを制作する)					
	8						
	9	HTML&CSS:教材②Chapter10(マルチデバイス対応ページを制作する)					
	10						
	11	JavaScript:教材①復習(制御構造、配列、関数)			前期で学習したJavaScriptの制御構造、配列を復習しておく(1時間)		
	12	JavaScript:JavaScriptのライブラリであるjQueryの基本					
13-18	Monacaを使った制作演習			制作するサイト案を考える			
評価方法	(1)授業の中で課題を指示する。(2)確認テストを数回実施する。(3)作品制作を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講状況				◎		10%
	確認テスト	◎					10%
	課題提出	○	◎		◎		30%
	作品制作		◎		◎		50%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	プログラミング演習 I							
科目名(英)								
単位数	3単位	時間数	54時間	担当者	小淵洋子			
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験				
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年							
授業概要	Javaの開発環境とプログラミングの基礎文法を学んだ後、オブジェクト指向の基本的概念であるクラス、メソッド、カプセル化、継承、ポリモーフィズムを中心に学習を進める。 各テーマの理解確認として複数の難易度別課題に取り組むことで、プログラミング力を養う。							
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				Javaの開発環境を設定できる		
	○	○				クラスや継承等のオブジェクト指向に基づくJavaプログラムを作成できる		
テキスト・教材 参考図書	スッキリわかるJava入門(株式会社インプレス)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1 2	Java環境設定、第1～2章 Javaプログラムの書き方、式と演算子、型変換						
	3 4	第3章 条件分岐と繰り返し、分岐構文と繰り返し構文のバリエーション						
	5 6	第4章 配列の書き方、多次元配列				授業で指示した課題を期限までに提出すること(1時間)		
	7 8	第5章 メソッドの引数、mainメソッドの引数						
	9 10	第5章 メソッドの戻り値、メソッドのオーバーロード、コマンドライン引数						
	11 12	第6章 複数クラスを用いた開発				授業で指示した課題を期限までに提出すること(1時間)		
	13 14	確認テスト(実技)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)		
	15 16	第7章 オブジェクト指向の定義と機能 第8章 インスタンスとクラス						
	17 18	第9章 クラス型と参照						
	19 20	第10章 継承				授業で指示した課題を期限までに提出すること(1時間)		
	21 22	第11章 コンストラクタ						
	23 24	第12章 多態性						
	25 26	総復習				授業で指示した課題を期限までに提出すること(1時間)		
	27	確認テスト(筆記)				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと(1時間)		
	15							
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト(実技、筆記)を2回実施する。 (3)授業中にテーマ毎の練習問題を課題として指示し、取り組み状況や完成度を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		定期試験	◎	◎				50%
		確認テスト	◎	◎	◎	○		20%
課題演習			◎	◎	○		20%	
受講状況					◎		10%	
履修上の注意								

科目名	一般教養 I B						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	18時間	担当者	畠添正和		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	就職筆記試験の要素である英語及び社会に関して基本知識を習得する。毎回多くの練習問題を解くことで、様々な問題に対応できる力をつける。また、前期に実施した国語及び数学の復習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				英語の基本5文型で書かれた短文の和訳ができる	
	○					就職試験頻出の漢字、同音異義語、四字熟語の読み書きができる	
	○	○				長文や図表を用いた数学問題で正しい式を考えることができる	
テキスト・教材 参考図書	就職筆記試験対策問題集(ウィネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	英語:短文和訳(1. 前置詞句) 英語:短文和訳(2. To不定詞)					
	2	英語:短文和訳(3. Ing形 4. 過去分詞) 英語:短文和訳(5. 第5文型)					
	3	英語:短文和訳(6. Itを用いた文) 英語:短文和訳(7. 関係詞)				これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと(1時間)	
	4	小テスト(英語(短文和訳))				授業内容に係るテストを実施するので、復讐しておくこと(1時間)	
	5	小テストのフォローアップ 英語:1. 基本単語、2. 時事英語 国語・数学の復習					
	6	英語:3. 熟語、4. 発音、5. 会話表現 国語・数学の復習					
	7	英語:6. 文法、7. 英文和訳、8. 和文英訳 国語・数学の復習					
	8	英語:長文読解 国語・数学の復習					
	9	総復習				これまでの学習内容で苦手とする分野を確認しておくこと(1時間)	
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを1回実施する (3)授業の中で課題を指示する以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	ゼミナール I B						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	姫野マリ・小淵洋子・北島仁宇・村上香代 元田真史・染矢裕美子・奥野広成・松浦仁志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	学習を進めるうえで基盤となる力を養い、社会人基礎能力を身につける。 PDCAサイクルを意識した取り組みを個人やチーム、クラス単位でのワークとして実施する。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		PDCAサイクルを用いた目標および行動管理ができ、計画立案、実行、振り返りが実践できる	
	○			○		グループワークを通して、チームへの主体的な取り組みと他者への働きかけができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会人基礎力、PDCAサイクルを学ぶ				社会人基礎力、PDCAについて調べてくること	
	2	PDCA実践学習① Plan 学習目標設定 学習計画立案				学習計画をまとめレポートを作成すること	
	3	PDCA実践学習② Do 計画に沿った学習(前半)					
	4	PDCA実践学習③ Do 計画に沿った学習(後半)					
	5	PDCA実践学習④ Check 学習効果の確認					
	6	PDCA実践学習⑤ Action 振り返り				振り返りをまとめレポートを作成すること	
	7	学習基礎力向上① …読解力が向上しているかチェックする					
	8	個人学習計画 …プログラミング技術イベントに向けて					
	9	チームイベント準備計画① …スポーツ大会イベントに向けて				自分の意見をまとめてくること	
	10	チームイベント準備計画① …スポーツ大会イベントに向けて				自分の意見をまとめてくること	
	11	学習基礎力向上② …一般教養力が向上しているかチェックする					
	12	学習基礎力向上③ …読解力が向上しているかチェックする					
	13	学習基礎力向上④ …IT基礎力が向上しているかチェックする					
	14	クラスイベント準備計画 …学園祭クラス企画 計画・準備				自分の意見をまとめてくること	
15	1年間の振り返り				振り返りをまとめレポートを作成すること		
評価方法	(1)レポート(数回程度)の提出状況 (2)授業中に指示した課題の内容 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題レポート		○		○		50%
	受講状況				○		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	キャリアデザイン						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	村上香代		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科 1年						
授業概要	就職採用試験に提出する履歴書が作成できる。 求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。 就職活動の申し込みができる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○	○	○		求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動の流れ、就職活動のルールを知る					
	2	業界研究① IT業界の基礎				IT業界について調査する(30分)	
	3	業界研究② 様々な業種に絡むIT業界				IT分野の業種について調査する(30分)	
	4	業界研究③ IT業界で活躍する人材とは				社会人基礎力について調査する(30分)	
	5	自己分析① 過去の自分と向き合う				就職活動ガイドブックの自己分析シートを記入する(30分)	
	6	自己分析② 今の自分と向き合う					
	7	自己分析③ 未来の自分と向き合う				5年後、10年後の自分の姿を予想する(30分)	
	8	履歴書作成① 自己PR				自己PRを完成させる(1時間)	
	9	履歴書作成② 業界志望理由				業界志望理由を完成させる(1時間)	
	10	履歴書作成③ 趣味・特技・特記事項				履歴書を完成させる(1時間)	
	11	求職票受付面接練習① 入退室の所作					
	12	求職票受付面接練習② 自己PR・志望理由の受け答え					
	13	求職票受付面接練習③ 自己PR・志望理由の掘り下げ					
	14	求職票受付面接練習振り返り					
15	企業説明会・入社試験時のマナー						
評価方法	(1)志望職種に対する履歴書を作成する。(2)学内で面接試験を実施する。(3)授業への取り組み状況。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準はR(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	求職票受付面接	○	◎	◎	◎		50%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスソフトウェア演習 I B					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	18時間	担当者	河野明子	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年					
授業概要	Wordを使用して、ビジネス文書や表現力をアップする機能を使った文書(チラシ等)が作成できる。 PowerPointを使用して、プレゼンテーションを行う際の効果的に見せるためのスライド作成ができる。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	
	○	○			目標	
	○	○			Wordを使って、30分以内でビジネス文書(社外文書)を作成できる	
					PowerPointを使って、プレゼンテーションを行う際の効果的に見せるためのスライド作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019(FOM出版)					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	第1章 Wordの基礎知識/第2章 文書の新規作成(Word)				
	2	第3章 グラフィック機能の利用			テキストの第1章～第2章を復習しておくこと(1時間)	
	3	第4章 表の作成(Word)/第13章 アプリ間でデータの共有(WordとExcel)				
	4	Word 練習問題			テキストの第1章～第4章を復習しておくこと(1時間)	
	5	実技試験(Word)/第10章 PowerPointの基礎知識			4回の練習問題を復習しておくこと(1時間)	
	6	第11.12章 プレゼンテーションの新規作成 スライドショーの実行				
	7	第13章 アプリ間でデータの共有(WordとPowerPoint)				
	8	PowerPoint 練習問題(総復習)、プレゼンテーション作成 Wordでストーリーシート作成			テーマを考えておくこと(0.5時間)	
	9	PowerPointでプレゼンテーションの資料作成				
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	(1)定期試験(実技)を実施する。(2)数回の課題や宿題を課す。(3)課題に対するプレゼンテーションを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	実技試験			◎		50%
	課題・プレゼンテーション			◎		20%
	宿題			◎	○	15%
	受講状況				◎	15%
履修上の注意	プレゼンテーションには時間の制約があるのでしっかり守って作業をすること。 再試験は実施しない。					

科目名	情報処理試験対策 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	姫野マリ・小淵洋子・北島仁宇・村上香代 元田真史・染矢裕美子・奥野広成・松浦仁志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科1年・情報システム専攻科1年・情報工学科1年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	3	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	4-5	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	8	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						

科目名	プログラミング演習ⅡB						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	川野啓祐・手嶋隆之・正路文徳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	Java言語の基礎知識を修得し、実際の開発時に使用される実践的な知識を学び活用できるようになる。SDK8以降にJavaに追加された開発技術や技法を理解し、ラムダ式・ストリームなどモダン記法に基づいたソースコードを読解・記述できることを目指す。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	◎				Java言語の技法(ラムダ式や関数オブジェクト、ストリームなど)とその考え方を説明できる。	
		◎				Java言語の技法(ラムダ式や関数オブジェクト、ストリームなど)を利用したソースコードが解読できる。	
	○	◎				PHPなど他言語に通じるモダンなオブジェクト指向プログラミングの考え方を理解し応用することができる	
テキスト・教材 参考図書	Java実践編 アプリケーション作りの基本(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	第1章・第2章・第5章の復習					
	4-6	第5章 コレクション 5-2					
	7-9	第5章 コレクション 5-3					
	10-12	第6章 ラムダ式					
	13-15	第7章 入出力 7-1					
	16-18	第7章 入出力 7-2~7-3まで					
	19-21	第8章 JavaFXによるGUIアプリケーション					
	22-24	第9章 グラフィックスとマウスイベント 9-1~9-2					
	25-27	第9章 グラフィックスとマウスイベント 9-2~9-3、 第10章ネットワーク10-1					
	28-30	第10章 ネットワーク10-2					
	31-33	第11章 一歩進んだJavaプログラミング					
	34-36	確認テスト、データベース接続、DML操作					
	37-39	DML操作、総合演習1					
40-42	総合演習2						
43-45	総合演習3						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テスト(筆記)を1回実施する。(2)課題演習を4回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				50%
	確認テスト	○	◎		○		20%
	課題演習	○	◎		○		20%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	USBメモリを持参すること。						

科目名	Webプログラミング演習 II B						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	手嶋隆之・川野啓祐		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	前期に引き続き、PHPを活用したWebアプリケーション開発の基礎の修得を目指す。より実践的でより効率的なプログラミング開発を行い、実践的な技術力の習得を目指す。課題として、本格的なWebアプリケーションを作成し、3年生の卒業研究に繋げていく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	◎				PDOクラスを利用してデータベースを操作することができる	
		◎				本格的なWEBアプリケーションを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	確かな力が身につくPHP「超」入門(SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-6	Chapter6 データベースの基本と操作(1)、(2)の復習				しっかり復習しておくこと	
	7-12	Chapter6 商品一覧を表示する・Chapter6 商品データを検索する					
	13-18	Chapter6 商品データを追加する・Chapter6 商品データを更新する					
	19-24	Chapter6 商品データを削除する・Chapter6 まとめ					
	25-30	確認テスト、Chapter7 商品や顧客などの情報を格納するデータベース				確認テストの勉強をしておくこと	
	31-36	Chapter7 サイトへのログイン・ログアウト処理					
	37-42	Chapter7 会員情報の登録					
	43-48	Chapter7 ショッピングカート、お気に入りに商品を登録する					
	49-54	確認テスト、総合演習1				確認テストの勉強をしておくこと	
	55-60	総合演習2					
	61-66	総合演習3					
	67-72	総合演習4					
	73-78	総合演習5					
79-84	総合演習6						
85-90	総合演習7				課題を提出すること		
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を2回実施する。(3)演習課題を5回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	◎	◎				40%
	課題演習		◎	○	○		50%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	再試験は実施しない。USBメモリを持参すること。						

科目名	Webフロントエンド演習B						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	志水徹		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	設計工程で活用できるモバイルユースに対応したWebアプリケーションのプロトタイプを、ツールを用いて作成する手法を学習する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		テキストの演習を、テキストを見ながら実施することができる。	
		◎				ツールを使ってモバイルアプリ用のプロトタイプを作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	Adobe XD UIデザインとプロトタイプ制作の教科書 技術評論社 できるクリエイター Inkscape独習ナビ Windows & Mac対応 インプレス オリジナル教材、USBメモリ 4G以上						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	プロトタイピングとUIデザイン、XDの基本、XDでオブジェクトをつくる					
	2	曲線やアイコンの作成、テキストや画像の扱い					
	3	リピートグリッドの利用				使い方を復習しておくこと	
	4	共通パーツの管理、グリッド設定と画像書き出し					
	5	プロトタイピング					
	6	プロトタイプの共有				使い方を復習しておくこと	
	7	共通パーツの作成					
	8	トップページの作成					
	9	フォームや表の作成					
	10	プロトタイピングとデータの整理				使い方を復習しておくこと	
	11 -	課題演習1				期限までに課題を完了させること	
	16 -	課題演習2				期限までに課題を完了させること	
	21 -	課題演習3				期限までに課題を完了させること	
26 -	課題演習4				期限までに課題を完了させること		
評価方法	(1)課題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。USBメモリを持参すること。						

科目名	システム開発演習 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	90時間	担当者	志水徹・川野啓祐・高橋政博		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科プログラミング専攻2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻2年・情報工学科高度ITシステム専攻2年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	与えられた要件定義書から外部設計書(画面設計書とデータベース設計書等)を作成する技術習得を目指す。 本授業はグループでの実習を主とし、外部企業からの助言、評価を実施する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		◎				与えられたシステム要件を把握した上で、画面設計書を作成できる。	
		◎				与えられたシステム要件を把握した上で、データベース設計書を作成できる。	
		◎	○			作成した画面設計書を元に、プロトタイプを作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル教材						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	オリエンテーション 前期の復習(公欠管理システム)					
	4-7	データモデリング演習					
	8-9	設計応用演習(要件定義)					
	10	設計応用演習(画面一覧、画面遷移図)					
	13	設計応用演習(画面レイアウト設計)					
	16	設計応用演習(E-R図)					
	19	設計応用演習(テーブル設計、CURD図)					
	22	設計中間レビュー					
	25	設計応用演習(設計書修正)					
	31	設計応用演習(プロトタイプ制作)					
	41	設計最終レビュー					
	44	設計書修正					
評価方法	(1)課題を数回実施する。(2)レビューを数回実施する。企業レビューへのやむおえない事情を除く不参加の場合は大幅に減点する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		30%
	レビュー		○	○	◎		30%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。USBメモリを持参すること。 企業レビューは原則参加すること(公欠などやむおえない事情は除く)。						

科目名	ゼミナールⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	志水徹		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科2年、情報システム専攻科アドバンス1年						
授業概要	関東の研修旅行に向け、訪問先の企業や展示会での展示企業を調査し、まとめる。 また、旅行の計画をグループで立案することで、グループワークの実践を行う。 自己解決能力の向上を図るために、自分が興味のあるICT技術について調査し、成果発表をする。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		◎				研修旅行で訪問先の企業や展示会を調査し、まとめることができる。	
		◎		○		研修旅行でのスケジュールを立案することができる。	
		◎	○	○		自ら調査したICT技術について発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 後期のチーム確認				後期の目標を決めよう	
	2	研修旅行準備①・訪問先や展示会出展の企業を調べよう①					
	3	研修旅行準備②・訪問先や展示会出展の企業を調べよう②					
	4	研修旅行準備③・スケジュールを立てよう①					
	5	研修旅行準備④・スケジュールを立てよう②				行動予定表を作成する	
	6	研修旅行の振り返り				振り返りレポートを作成すること	
	7	ICT技術研究1					
	8	ICT技術研究2					
	9	ICT技術研究3					
	10	ICT技術研究4					
	11	ICT技術研究5					
	12	ICT技術研究6					
	13	ICT技術研究7				研究成果をまとめておくこと	
	14	ICT技術研究成果発表会1				発表練習をしておくこと	
15	ICT技術研究成果発表会2				発表練習をしておくこと		
評価方法	(1)成果物の提出課題を数回実施する。(2)成果物の成果発表を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		30%
	成果発表		◎	○	○		30%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ユウジ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	プレゼンテーション技法の基礎を正しく理解し、「話す力」、「伝える力」を高める実践的な演習を行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		プレゼンテーション技法の基礎を説明できる。	
	○			○		相手に伝わることを意識したプレゼンテーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	プレゼンテーション技法(株式会社ウイネット 刊)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	プレゼンテーションとは何か					
	2	プレゼンテーションツール作成の基礎知識					
	3	企画立案・情報収集法					
	4	プレゼンテーションツール別プレゼンテーションの留意点					
	5	①プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	6	①プレゼン演習 発表会 <今の気持ちを正直に話す>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	7	②プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	8	②プレゼン演習 発表会 <わかりやすく話す>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	9	③プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	10	③プレゼン演習 発表会 <自由に発想する>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	11	④プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	12	④プレゼン演習 発表会 <売れるプレゼン>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	13	⑤プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	14	⑤プレゼン演習 発表会 <ネットで集めたデータを分析する>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)レポートまたは課題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート提出		◎		○		50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ネットワークⅡB						
科目名(英)							
単位数	10単位	時間数	150時間	担当者	高倉美哉・久保山大地		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	Ciscoルータの基本操作、Ciscoデバイスの管理機能、スタティックルーティング、VLAN間ルーティング、IPv6アドレス、DHCP、NAT、ACL、各設定の確認方法、トラブルシューティングに必要な技術を講義と演習を通して学習する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ルーティング、IPv6アドレス、DHCP、NAT、ACLに関する基本用語、仕組みを説明できる。	
	○	○				ルーティング、IPv6アドレス、DHCP、NAT、ACLに関する基本設定、動作確認ができる。	
	○	○				ルーティング、IPv6アドレス、DHCP、NAT、ACLに関するトラブルシューティングができる。	
テキスト・教材 参考図書	徹底攻略 Cisco CCNA Routing & Switching ICND1編 教科書(インプレスジャパン)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-5	7-1 Ciscoルータの初期起動、7-2 ルータの基本設定、7-3 ルータの基本設定の確認					
	6-10	14-1 Ciscoデバイスの管理機能、14-2 Ciscoルータの管理、14-3 Cisco IOSイメージの管理、14-4 コンフィギュレーションファイルの管理					
	11-15	14-5 NTPによる時刻同期、14-6 Cisco IOSイメージのライセンス、14-7 パスワードリカバリ			演習課題のエビデンスを提出すること。		
	16-20	8-1 ルーティング、8-2 スタティックルーティング					
	21-25	8-3 ダイナミックルーティング、8-4 経路集約					
	26-30	8-5 メトリックとアドミニストレーティブディスタンス、9-7 VLAN間ルーティング			演習課題のエビデンスを提出すること。		
	31-35	15-1 IPv6の概要、15-2 IPv6アドレス					
	36-40	15-3 IPv6の主要プロトコル、15-4 IPv6アドレスの設定と検証					
	41-45	15-5 IPv6ルーティング			演習課題のエビデンスを提出すること。		
	46-50	10-1 IPv4アクセスリストの概要、10-2 ワイルドカードマスク					
	51-55	10-3 番号付き標準ACL、10-4 名前付き標準ACL					
	56-60	10-5 ACLの検証、10-6 ACLのトラブルシューティング			演習課題のエビデンスを提出すること。		
	61-65	11-1 DHCPによるインターネット接続、11-2 NATとPATの概要					
66-70	11-3 NATの設定、11-4 PATの設定						
71-75	11-5 NATとPATの検証、11-6 NATとPATのトラブルシューティング			演習課題のエビデンスを提出すること。			
評価方法	(1)オンライン試験を数回実施する。(2)演習課題のエビデンスを評価する。(3)授業の中で課題を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	オンライン試験	○	◎				50%
	演習課題		◎	○			40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	サーバー構築・運用演習 I B						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	高倉美哉・久保山大地		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	インターネットサーバーの基本となるSambaとMailの仕組みを理解し、Samba、Postfix、Dovecotの設定方法を習得する。仮想化技術であるVagrant、Dockerの仕組みを理解し、Docker環境におけるインターネットサーバーの設定方法を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Sambaの仕組みを理解し、Sambaの基本設定ができる。	
	○	○				Mailの仕組みを理解し、PostfixおよびDovecotの基本設定ができる。	
	○	○				Vagrantの仕組みを理解し、Vagrantの基本操作ができる。	
	○	○				Dockerの仕組みを理解し、Docker環境におけるインターネットサーバーの設定ができる。	
テキスト・教材 参考図書	CentOS徹底入門 第4版(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-3	Sambaサーバー: Sambaの仕組み、Sambaインストール、Samba基本設定					
	4-6	Sambaサーバー: smb.conf構文チェック、Sambaユーザー管理					
	7-9	Sambaサーバー: 共有の作成、ユーザーディレクトリ公開			Sambaサーバー演習のエビデンスを提出すること。		
	10-12	Mailサーバー: メールの仕組み、Dovecotインストール					
	13-15	Mailサーバー: Postfix基本設定、Dovecot基本設定					
	16-18	Mailサーバー: メーラーの設定、SMTPコマンド、POPコマンド			Mailサーバー演習のエビデンスを提出すること。		
	19-21	Vagrant: Vagrantの仕組み、box、vagrantfile					
	22-24	Vagrant: 設定、起動、接続、停止、削除、box作成					
	25-27	コンテナ技術: Dockerの仕組み、Dockerインストール、Dockerイメージ取得					
	28-30	コンテナ技術: 設定、起動、接続、停止、削除、Dockerイメージ作成					
	31-33	コンテナ技術: DNSサーバー			DNSサーバー演習のエビデンスを提出すること。		
	34-36	コンテナ技術: Webサーバー(Apache)			Webサーバー(Apache)演習のエビデンスを提出すること。		
	37-39	コンテナ技術: Webサーバー(Nginx)			Webサーバー(Nginx)演習のエビデンスを提出すること。		
40-42	コンテナ技術: Sambaサーバー			Sambaサーバー演習のエビデンスを提出すること。			
43-45	コンテナ技術: Mailサーバー			Mailサーバー演習のエビデンスを提出すること。			
評価方法	(1)オンライン試験を数回実施する。(2)演習課題のエビデンスを評価する。(3)授業の中で課題を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	オンライン試験	○	◎				50%
	演習課題		◎	○			40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	システム開発演習 I						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	90時間	担当者	高倉美哉・久保山大地		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科ネットワーク専攻2年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻2年・情報工学科高度ネットワーク・セキュリティ専攻2年・情報システム科ネットワーク専攻1年・情報システム専攻科ネットワークエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	ネットワーク設計における流れ、設計項目、必要ドキュメントを実習を通して学習する。また運用監視業務を実践的な環境で体験することで、運用監視に関する基本用語を押さえ、ビジネスマナーを意識して顧客に適切に報告するスキルを身につける。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				ネットワーク設計に関する基本用語を説明できる。	
	○	○				ネットワーク設計に関するドキュメントを作成できる。	
	○	○				ネットワーク運用監視に関する基本用語を説明できる。	
	○	○				ネットワーク運用監視に関する報告書を作成し、ビジネスマナーを意識して報告できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-6	ネットワーク設計シナリオ1(物理設計)					
	7-12	ネットワーク設計シナリオ1(論理設計)					
	13-18	ネットワーク設計シナリオ1(セキュリティ設計)					
	19-24	ネットワーク設計シナリオ1(高可用性設計)					
	25-30	ネットワーク設計シナリオ1(管理設計)				シナリオ1の課題を提出すること。レビューの準備をすること。	
	31	ネットワーク設計シナリオ1(レビュー、フィードバック)					
	32-34	ネットワーク設計シナリオ2(予備知識講義)					
	35-36	ネットワーク設計シナリオ2(設計)					
	37-38	ネットワーク設計シナリオ2(構築)					
	39-44	ネットワーク設計シナリオ2(運用監視)				シナリオ1の課題を提出すること。レビューの準備をすること。	
	45	ネットワーク設計シナリオ2(レビュー、フィードバック)					
	評価方法	(1)課題を数回実施する。(2)レビューを数回実施する。企業レビューへのやむおえない事情を除く不参加の場合は大幅に減点する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
課題			◎		○		30%
レビュー			○	○	◎		30%
受講状況					◎		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。USBメモリを持参すること。 企業レビューは原則参加すること(公欠などやむおえない事情は除く)。						

科目名	ゼミナールⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	志水徹		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科2年、情報システム専攻科アドバンス1年						
授業概要	関東の研修旅行に向け、訪問先の企業や展示会での展示企業を調査し、まとめる。 また、旅行の計画をグループで立案することで、グループワークの実践を行う。 自己解決能力の向上を図るために、自分が興味のあるICT技術について調査し、成果発表をする。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					研修旅行で訪問先の企業や展示会を調査し、まとめることができる。	
	◎		○			研修旅行でのスケジュールを立案することができる。	
	◎	○	○			自ら調査したICT技術について発表することができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 後期のチーム確認				後期の目標を決めよう	
	2	研修旅行準備①・訪問先や展示会出展の企業を調べよう①					
	3	研修旅行準備②・訪問先や展示会出展の企業を調べよう②					
	4	研修旅行準備③・スケジュールを立てよう①					
	5	研修旅行準備④・スケジュールを立てよう②				行動予定表を作成する	
	6	研修旅行の振り返り				振り返りレポートを作成すること	
	7	ICT技術研究1					
	8	ICT技術研究2					
	9	ICT技術研究3					
	10	ICT技術研究4					
	11	ICT技術研究5					
	12	ICT技術研究6					
	13	ICT技術研究7				研究成果をまとめておくこと	
	14	ICT技術研究成果発表会1				発表練習をしておくこと	
15	ICT技術研究成果発表会2				発表練習をしておくこと		
評価方法	(1)成果物の提出課題を数回実施する。(2)成果物の成果発表を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題		◎		○		30%
	成果発表		◎	○	○		30%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	キャリアデザイン						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高倉美哉		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科2年、情報システム科アドバンス1年						
授業概要	就職採用試験に提出する履歴書が作成できる。 求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。 就職活動の申し込みができる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○	○	○		求職票受付面接に合格し、面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動の流れ、就職活動のルールを知る					
	2	業界研究① IT業界の基礎				IT業界について調査する	
	3	業界研究② 様々な業種に絡むIT業界				IT分野の業種について調査する	
	4	業界研究③ IT業界で活躍する人材とは				社会人基礎力について調査する	
	5	自己分析① 過去の自分と向き合う				就職活動ガイドブックの自己分析シートを記入する	
	6	自己分析② 今の自分と向き合う					
	7	自己分析③ 未来の自分と向き合う				5年後、10年後の自分の姿を予想する	
	8	履歴書作成① 自己PR				自己PRを完成させる	
	9	履歴書作成② 業界志望理由				業界志望理由を完成させる	
	10	履歴書作成③ 趣味・特技・特記事項				履歴書を完成させる	
	11	求職票受付面接練習① 入退室の所作					
	12	求職票受付面接練習② 自己PR・志望理由の受け答え					
	13	求職票受付面接練習③ 自己PR・志望理由の掘り下げ					
	14	求職票受付面接練習振り返り					
	15	企業説明会・入社試験時のマナー					
評価方法	(1)履歴書を作成する。(2)求職票受付面接に合格する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	求職票受付面接	○	◎	◎	◎		50%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ユウジ		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科2年、情報システム専攻科2年、情報システム科2年、情報システム専攻科アドバンスコース1年、情報システム科アドバンスコース1年						
授業概要	プレゼンテーション技法の基礎を正しく理解し、「話す力」、「伝える力」を高める実践的な演習を行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		プレゼンテーション技法の基礎を説明できる。	
	○			○		相手に伝わることを意識したプレゼンテーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	プレゼンテーション技法(株式会社ウイネット 刊)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	プレゼンテーションとは何か					
	2	プレゼンテーションツール作成の基礎知識					
	3	企画立案・情報収集法					
	4	プレゼンテーションツール別プレゼンテーションの留意点					
	5	①プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	6	①プレゼン演習 発表会 <今の気持ちを正直に話す>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	7	②プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	8	②プレゼン演習 発表会 <わかりやすく話す>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	9	③プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	10	③プレゼン演習 発表会 <自由に発想する>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	11	④プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	12	④プレゼン演習 発表会 <売れるプレゼン>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
	13	⑤プレゼン演習 チームに分かれて企画立案・情報収集				作成準備を事前に行っておくこと。	
	14	⑤プレゼン演習 発表会 <ネットで集めたデータを分析する>				発表練習を事前に行っておくこと。プレゼンシート提出。	
15	まとめ						
評価方法	(1)レポートまたは課題を数回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート提出		◎		○		50%
	受講状況				◎		50%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	ネットワーク概論						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	高倉美哉		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科2年、情報システム専攻科2年、情報システム科2年、情報システム科アドバンスコース1年						
授業概要	TCP/IPネットワークに利用されている技術やツールについて学ぶ。またシミュレーションソフトを使用して、データ転送の仕組みやアプリケーションプロトコルについて理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				IPアドレス、サブネットマスクの意味、サブネット化の計算ができる	
	○	○				要求に応じて、小規模LANの設計ができる	
	○					telnet、DNS、HTTPなどのアプリケーションプロトコルについて説明できる	
	○					OSI参照モデルの各レイヤの特徴を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	Get! CompTIA Network+ (翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1- 2	ネットワーク通信					
	3- 4	OSI参照モデル(1)					
	5- 6	OSI参照モデル(2) -ネットワーク層、データリンク層					
	7- 8	OSI参照モデル(3) -ネットワーク層、データリンク層				OSI参照モデルの各レイヤの特徴をまとめる	
	9- 10	IPアドレス(1)					
	11- 12	IPアドレス(2)					
	13- 14	IPアドレス(3)					
	15- 16	IPアドレス(4)				IPアドレスの計算練習を行う	
	17- 18	ルーティング(1)					
	19- 20	ルーティング(2)					
	21- 22	ルーティング(3)				ルーティングの仕組み・特徴や用語をまとめる	
	23- 24	スイッチング(1)					
	25- 26	スイッチング(2)				スイッチングの仕組み・特徴や用語をまとめる	
	27- 28	復習 - OSI参照モデル、IPアドレス					
	29- 30	復習 - ルーティング、スイッチング					
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)課題・レポートを3回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				50%
	小テスト	◎	◎				25%
	課題・レポート				○		25%
履修上の注意							

科目名	クラウド						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	久保山大地		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 2年・情報システム専攻科 2年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科1年アドバンスコース						
授業概要	クラウドコンピューティングの基礎知識を講義と演習を通して学習する。クラウドの概要、仕組み、要素技術、利点、リスク、サービスについて理解する。クラウドの主要サービスの一つであるAWSを演習で用いる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				クラウドコンピューティングに関する基本用語、仕組みを説明できる。	
	○	○				AWSのEC2に関する基本用語、仕組みを説明できる。	
	○	○				AWSのEC2に関する基本設定、動作確認ができる。	
テキスト・教材 参考図書	Cloud Essentials テキスト&問題集 CLO-001対応版(TAC)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 クラウドの特徴(1 クラウドとは、2 クラウドの基本特性、3 クラウドサービスモデル)					
	2	第1章 クラウドの特徴(4 クラウドの配置モデル、5 クラウドサービスの環境)					
	3	第2章 クラウドの仕組み(1 分散処理)					
	4	第2章 クラウドの仕組み(2 仮想化、3 その他の技術)					
	5	第2章 クラウドの仕組み(4 データ連携)					
	6	第2章 クラウドの仕組み(5 クラウド技術の標準化)					
	7	第3章 クラウドの導入と利用(1 クラウドとアウトソーシング、2 クラウドビジネスの特徴、3 クラウドとITサービスマネジメン)					
	8	第3章 クラウドの導入と利用(4 クラウドアプリケーションの開発の特徴、5 クラウドの導入検討、6 クラウド導入コスト、7 クラウド導入の成功)					
	9	第4章 クラウドのリスクと影響(1 クラウドの技術リスク、2 クラウドの利用リスク、3 クラウドとコンプライアンス)					
	10	第4章 クラウドのリスクと影響(4 クラウドベンダーとの契約書、5 クラウドセキュリティ)					
	11	第5章 クラウドサービスの種類(1 代表的な商業サービス、2 ホスティングサービス)					
	12	第5章 クラウドサービスの種類(3 クラウドストレージ、4 日本のクラウド)					
	13	AWS概要(EC2、ELB、CloudWatch、Auto Scaling)					
	14	EC2演習			演習課題のエビデンスを提出すること。		
15	AutoScaling演習			演習課題のエビデンスを提出すること。			
評価方法	(1)オンライン試験を数回実施する。(2)演習課題のエビデンスを評価する。(3)授業の中で課題を指示する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	オンライン試験	○	◎				50%
	演習課題		◎	○			40%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	情報処理試験秋対策B						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	川野啓祐・志水徹・手嶋隆之・高橋政博・正路文徳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	6	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	11	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。			確認テストの範囲の復習をしておくこと。		
	16	確認テスト			間違えた問題のやり直しを実施すること。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				100%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験春対策B						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	川野啓祐・志水徹・手嶋隆之・高橋政博・正路文徳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	6	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	7-10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	11	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
	12-15	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、応用的な難易度の午後問題を中心に実施する。				確認テストの範囲の復習をしておくこと。	
	16	確認テスト				間違えた問題のやり直しを実施すること。	
評価方法	(1)確認テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				60%
	受講状況				◎		40%
履修上の注意	総合評価が不合格の場合でも、再試験は実施しない。						

科目名	一般教養ⅡB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	畠添正和		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 2年・情報システム専攻科 2年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科1年アドバンスコース						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説&練習問題を行う ③漢字ミニテスト 麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認テスト を行う						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語分野・非言語分野の問題に対して解答を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2)、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3)、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4)、漢字対策(その3)					
	5	中間テスト(CAB・GAB一連テスト)、漢字対策(その4)				中間テストの範囲を復習しておくこと	
	6	CAB・GAB対策(その5)、漢字対策(その5)					
	7	SPI数学分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7)及びSPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
15	SPI数学分野の小テスト及びSPI国語分野の復習、定期試験対策						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				40%
	小テスト	◎	◎				40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							